

第18期2012年度
TDA通常総会
基調講演

●会期：2012年5月19日(土)
●会場：京都私学館
●講師：齋藤 洋氏 京都「風工房」主宰 染色作家



「布の力、命の布を考える。—東北大地震が問いかけるもの—」

基調講演にお迎えしたのは、京都「風工房」を主宰する染色作家の齋藤洋氏です。

齋藤氏は横浜生まれで、1971年から京都で染めを始める。刷毛染めの作品を国内外の多くの場所で発表している。

また長い布を野外に張り、色を楽しみながら大勢で一気に染める「野染め」や「エイズメモリアルキルト」などの活動を続けている。

昨年3月11日のあの未曾有の東日本大震災がおこり、翌4月から齋藤氏の三陸を巡る長い旅が始まる。京都と三陸のギャラリーを繋げないかという思いがあり現地入りする。そこで見たあまりにも悲惨な光景に愕然とした。罹災された人々と共に野染めをしようと動き始めると各地で共感を呼ぶ。次第にそれが大きな支援活動の輪となって広がりをみせていく。

みんなで野染めした布をカットしてパッチワークキルトにするという工程は、なくなれた人を思う時間と場所の共有にもなる。布と縫う道具があればキルトはできるのだが、針や糸もない状況。そこで、お針箱のようなセットにして送って欲しいとホームページなどで呼びかけ、集まった1,000箱あまりを避難所、作業所、保育園、ケアホームへ布と一っしょに届けて回る。

すると手を動かす喜びと会話を取り戻し、こもりがちな生活に活気や沢山の笑顔を生むことにもなった。

岩手県南部で「てびら」は蝶々、「つぎ」は布を表すそうです。

野染めをした布に白い蝶々の舞うキルト「てびらこつぎこ」は、思いを持つ人と現地の人の間を行ったり来たりする中で生まれた癒しと希望の布です。まさしく命の布と言えます。

野染めした20メートルぐらいの生地と、手作りの本の表紙やぬいぐるみ、フラー、バッグ、ベストなどの製品をお持ち頂き会場いっぱい広げて見せて頂く。

人は自然の毛・綿・絹を染めて織って布にする。切って縫って作ったものたちと共に生活をする。生活に寄り添う布、人の心に寄り添う布の力の大きさを改めて確信する。実際に現地に入り活動を続けている齋藤氏のお話は、布を鮮やかな色で野染めするかのようにみんなの心に染み込んでいく。

そんな静かで輝く感動を胸に、私たちも被災された東北の方々に心を寄せ続けたいと思う。



31

第19期通常総会

■日時：2013年5月18日 土曜日
13:30～14:30
■会場：東京/秋葉原 ネット・カンファレンス会議室1
■出席者27名 委任状77名 合計104名
総会成立(会員123名 定款2/3 82名)
□議長 寺井理事長
□司会 豊方
□進行 小川事務局長
□出席者27名 委任状77名 合計104名
総会成立(会員123名 定款2/3 82名)



議事

『第19期 通常総会議案書審議並びに質疑応答』

第1号議案 *2012年度活動報告実施概要報告、会員移動状況 ⇒ 承認
第2号議案 *2012年度収支報告書 ⇒ 承認
第3号議案 *2013年度活動方針と組織 ⇒ 承認
第4号議案 *2013年度役員人事と担当役員(新担当:川本監事、寺井理事補佐、國米理事補佐) ⇒ 承認
第5号議案 *役員会開催予定 5月(東京)7月(テレビ会議)10月(大阪)12月(テレビ会議)3月(東京)
*2013年度各事業部活動計画 ⇒ 承認
第6号議案 *会費未納者の会員資格喪失(会費未納者3名) ⇒ 承認
第7号議案 *2013年度収支予算 ⇒ 承認

以上、すべての議案に対し満場一致の拍手により、承認いたしました。

第3号議案2013年度活動方針

- 1、グローバル化が加速する中で日本の立ち位置を見極め魅力ある創造をおこなうため、独自の研究活動を行い、価値ある感性と、もの作り姿勢などを探索・収集するとともに、新たなネットワークを構築して供用・共有できる知識・情報などを広く社会に発信し、テキスタイル関連事業の発展に寄与する事業計画を充実させる。
 - (1) テキスタイル研究会の開催と研究情報の発信、及びネットワークの拡大。
 - (2) 価値あるテキスタイルデザインを発掘し、「J布」ブランドを以て表彰すると共にジャパンデザインとして訴求・発信を行っていく。
- 2、協会の財政基盤の安定と確立を視野にいれた事業の柱作りを行っていくと共に、会員のデザイン創作と発信への支援をおこなって行く。
 - (1) インテリアトレンド情報の収集と発信(セミナー内容の充実と参加者拡大が課題)
 - (2) 情報、資料などの出版事業の継続拡大。
 - (3) テキスタイルマルシェ、およびテキスタイルクラフト・マルシェの模索・実施。

32